

平成28年度 第3回FD講演会

欧州大学の苦悩と挑戦 大学としての共通性と多様性をどう 両立させるか

日時:平成29年2月24日(金)
13:30~15:00

場所:東3-301

講師:国立教育政策研究所
深堀 聡子 氏



講演要旨

大学教育の質保証とは、大学が様々な観点から教育の質を確保することで、ステークホルダーの「信頼」を確立することを目指す。

質の観点とは、法令に定められた要件や認証評価の基準に加え、大学教育の基盤である学問分野の枠組みや市民性といった大学としての「共通性」を担保する観点と、大学独自のミッション、学生ニーズ、学生の進路先の雇用主ニーズといった、大学の「多様性」を推進する観点を両方を含む。学位プログラムを構築する際には、この「大学としての共通性と多様性をどう両立させるか」といった視点が不可欠であり、抽象的なレベルで合意された学修成果の枠組みに基づいて、教育現場に即した具体的実践に落とし込むエキスパート・ジャッジメントが肝要となる。

ボローニャ・プロセスによって、学位と単位の仕組みを共有する「欧州高等教育圏」の確立が政府主導で推し進められる中で、欧州の大学はこの「共通性と多様性の両立」に苦悩し、学問分野の学修成果に関する合意形成と学位プログラム設計の方法論としての「チューニング」を編み出してきた。一方、高等教育における国際的な学修成果アセスメントの最初の試みであるOECD-AHELOを通して、日本を含む世界の大学関係者は、抽象的なレベルで合意された学修成果の枠組みに基づいて、具体的なテスト問題を共同で開発することで、エキスパート・ジャッジメントを涵養することの重要性に気づき、国研テスト問題バンクやEU-ERASMUS+CALOHEEへと発展させてきた。

本講演では、こうした世界の動向を紹介することで、「信頼」される大学の在り方に関する議論を喚起したい。

講師プロフィール

京都大学教育学部卒業、同大学大学院教育学研究科博士前期課程修了、コロンビア大学大学院教育学研究科博士課程修了(Ph.D.)、東京大学社会科学研究所助手、京都女子大学短期大学部講師、同准教授、国立教育政策研究所高等教育研究部総括研究官を経て、同部長。

論文など

「エンジニアリング教育の達成度評価～テスト問題バンクの取組～第1回:連載にあたって-テスト問題バンクの活動について」『日本機械学会誌』第120巻第1178号, 2017年1月, 2-3頁。

「学習成果アセスメントによる教育改善とグローバル化」日本工学教育協会『工学教育』第64巻5号, 2016年9月, 3-8頁(査読有)。など多数